

平成 27 年度第 1 回宝塚市環境審議会議事録

日時：平成 27 年 4 月 21 日（火）10 時 00 分～11 時 40 分

場所：宝塚市役所 3-3 会議室

審議委員 出席 11 名 澤木委員、浅見委員、島委員、梅宮委員、足立委員、佐藤委員、矢野委員、辰巳委員、波田委員、富士山委員、笹山委員

欠席 3 名 島田委員、古川委員、遠藤委員

※審議会委員のうち、公共的団体等代表委員（自治会連合会代表委員）については、自治会連合会役員交代の手續中のため未確定

次第

1 開 会

2 委嘱辞令交付 （略）

3 市長あいさつ（中川市長）

お忙しい中を環境審議会にご出席いただき有難うございます。本年は、第 2 次環境基本計画の最終年度に当たり、第 3 次環境基本計画の諮問をさせて頂くこととなりました。

第 2 次環境基本計画では、地球温暖化対策、循環型社会の構築、生物多様性の保全等の課題がある中で、「環境都市・宝塚 健全で恵み豊かな環境を共に育むまち」を目標として、持続可能なまちづくりに向けて各施策を進めてまいりました。

第 2 次計画の策定以降、社会情勢が大きく変化しており、特に 2011 年の東日本大震災における福島第 1 原子力発電所の事故を受けてエネルギー問題への関心が高くなっています。宝塚市においても、2012 年 4 月に新エネルギー推進課を立ち上げまして、原発に依存しないまちづくりを進めて行こうということで、市民との協働により取り組んでおります。原発銀座といわれる福井県に近く、市民の関心も高いことから、エネルギーへの対策を重要課題としております。

生物多様性については、市内各所で市民の環境団体が活発に活動して頂いており、感謝しているところです。西谷地区の丸山湿原は、県の天然記念物の指定を受けました。これも多くのボランティアの方々に保全をして頂いています。協働の取組は環境保全に欠かせないものと思っております。地球温暖化は深刻化し、異常気象と言われていたのが毎年同じように起こり、自然災害が心配な時代になりました。

宝塚市では、恵まれた環境をいかに活かしていくかということと、世界規模の地球温暖化問題、エネルギー問題など、ご議論頂きながら積極的に施策を進めて行きたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

4 委員紹介 （略）

5 会長・副会長の選任

事務局：宝塚市環境審議会規則第 3 条の規定に基づき、会長、副会長は、委員の互選となって

いる。ご意見をお願いしたい。

委員 : 事務局案があれば教えて頂きたい。

事務局 : 事務局案では、会長を澤木委員に、副会長を浅見委員にお願いしたいと考えている。

委員 : その案に賛成する。

事務局 : 他の委員に異議はないか。

委員全員 : 異議なし。

事務局 : 異議なしと認め、宝塚市環境審議会の会長を澤木委員、副会長を浅見委員に就任頂きたい。両委員には今後の会の運営をよろしく願います。

会長あいさつ :

宝塚市との関りは、10年以上になる。総合計画、都市計画に携わり、環境審議会委員も務めた。長年ご尽力された前会長の意思を引き継ぎ、いつまでもこのまちで暮らし続けたいと願う市民の想いに応えるため、今の環境を維持し、より良い環境が築かれるように審議を進めていきたい。ご協力をお願いします。

事務局 : 宝塚市環境審議会規則第4条により議長は会長をお願いします。

会長 : 議事録署名人に事務局案はあるか。

事務局 : 出席委員から50音順で選任し、浅見委員、足立委員にお願いしたいと考えている。

会長 : 両委員にお願いすることに意見がなければ、両委員にお願いします。議事録は一言一句書き出すのではなく、要点をまとめたものとしてほしい。審議会は公開となっているが傍聴の申し込みはあったか。

事務局 : 申し込みはない。

6 諮 問 中川市長から、澤木審議会長へ諮問書の手渡し

7 議 事

会長 : 諮問事項の審議に入る。事務局に説明をお願いします。

事務局 : (諮問主旨説明)

会長 : 質問などあればお願いしたい。

会長 : 次に第3次宝塚市環境基本計画策定に関して、事務局で整理した事項等について説明をお願いします。

事務局 : (第2次環境基本計画の概要、市民・事業者アンケート結果、基礎調査について説明)

会長 : 事務局から現計画の概要、第3次基本計画策定に向けた調査等の説明があった。現計画の進捗に関する調査は遅れているが、小委員会の方で資料を提出する予定とのこと。多岐にわたった説明だったが、資料の内容についての質問などがあればお願いします。

委員 : アンケートの回収について。市民の1,500件について再度説明をお願いします。

事務局 : 20歳以上の市民が約181,000人。その中から、1500人を無作為に抽出した。内訳は男女同数で750人ずつ。年代についても、各人口比率に按分した形で抽出した。

会長 : 20歳以上のことだが、資料には18歳以上とある。

事務局 : 20歳に修正している。

- 委員 : 環境基本計画基礎調査のまとめとして報告された内容には、アンケートの結果がかなり入っているが、この基礎調査にはアンケートも含まれるのか。
- 事務局 : まとめはアンケートも踏まえた内容にしている。
- 委員 : 環境の現状についての客観的なまとめが必要と思う。それとアンケートを合せた総合的な評価を行うのは良いと思うが。
- 事務局 : 環境の現状については、基礎調査報告書の P35 の環境特性でまとめている。
- 会長 : 基礎調査は、アンケートと別に行っているか。
- 事務局 : 別に行っている。
- 会長 : 基礎調査は、どういった時に、どれくらいの頻度で実施するか。基本計画の改定に合わせてやるものか。
- 事務局 : この基礎調査は、第3次計画策定を目的としたもので、定期的に行っているものではない。宝塚市の大気、水質を含めて毎年、「宝塚の環境」として年次報告を出している。それを経年的に追っていくと環境の変化が把握できる。今回は、今後の環境施策をどうまとめていくのかをご判断頂くための基礎調査としてまとめている。
- 委員 : 再度確認だが、基礎調査のまとめが 35 ページにある。アンケートは別途まとめられている。市としての取組みについては今後出てくる。その3本の柱をまとめて、再度報告を提出されるという理解でよいか。
- 事務局 : 基本計画の進捗については、最終、改めてまとめるよう考えている。
- 委員 : 基礎調査のまとめで、例として自然環境のところ。これは増えたのか減ったのかというような経年的な傾向、あるいはこの10年間に生物多様性戦略を立てたとか条例にこのようなものがあるとかも含めて書いていただけるとわかりやすいと思う。
- もう1点。環境の現状と課題の2ページの部分。II 自然環境の2段落目。「本市の貴重な自然環境と生物多様性の保全」が課題としてあがっているが、これは基本計画の目指す方向性として、現計画の5ページに豊かな生態系を育むまちづくりの項目に「宝塚市の生物多様性の保全」とある。目指す方向という大きな目標が、ここで課題としてあがってしまうと、具体的な次の行動に移す時に一段階はしょられてしまうことになる。そのため、課題としてあげるべき項目は、より宝塚市の固有の事情に基づいた調査の結果に落とし込んだかたちで記述して頂けると、次回以降の具体的な検討に使いやすい資料となる。
- 会長 : その他いかがか。よろしければ、質疑はこの程度とする。当該案件について、集中的かつ効果的に審議するために、宝塚市環境審議会規則第6条の規定に基づき、小委員会を設置したいと思うが異議はないか。異議なしとして、小委員会を設置することとし、名称を「第3次宝塚市環境基本計画策定小委員会」とする。会長として、小委員会の委員を指名する。自然環境保護に関わっている足立委員、商工業者の代表として矢野委員、知識経験者として浅見委員、梅宮委員、市民公募の波田委員、辰巳委員の計6名の委員にお願いする。小委員会の委員長は、足立委員にお願いする。
- 委員 : 今後の日程について、事務局で説明をお願いします。
- 事務局 : 環境審議会は、5回の開催を予定している。第2回審議会は7月下旬をめぐり、第3回を9月中～下旬、第4回を12月～1月初めに、最終報告は来年3月を予定している。日程は、澤木会長と調整のうえお知らせする。小委員会は、4月が難しいため5月連休明けを予定する。以後、順次遅れて最終(6回目)を12月中の開催を予定する。足立委員長との調整後、ご案内する。タイトな予定になるが、よろしくお願いします。

会 長 : 短期間に多数の開催になるがよろしく願います。資料作成は、早めに準備するよう願います。議題については以上とするが、その他事務局であるか。

事務局 : 資料は、早めに用意する。日程調整も早急に行うのでよろしく願います。

会 長 : これをもって、平成 27 年度第 1 回宝塚市環境審議会を終了する。

閉会あいさつ（酒井環境部長）

タイトな日程になるが、資料作成も進めていくので、慎重なご審議等よろしく願いたい。現在、第 5 次総合計画の見直しを進めている。8 月をめどに答申の予定となっている。総合計画は環境基本計画の上位計画となるため整合性を図っていく必要がある。その辺りの審議の状況も情報提供していきながら、環境基本計画のご審議をして頂くように考えている。今後ともよろしく願います。

8 閉会

以上